



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島教区 電話099(26)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部



心で触れた今年の川内殉教祭 来年の列福を前に300人集う



来年の列福が決まった薩摩の殉教者・レオ税所七右衛門朝の列福を祈り、その遺業に倣おうとする「川内殉教祭」が十一月十八日(日)午後、川内教会であつた。

レオ七右衛門が信仰を棄てなかつたために平佐(薩摩川内市)で斬首刑に処せられたのは、一六〇八年十一月十七日のこと。受洗からわずか四か月足らずで、後々の信者の見本となる生き方を選択するに至つた。その遺業を称える殉教祭は、川内教会の熱心な信者たちによって二十数年前から小教区行事として始められ、その後、教区行事と位置づけられてからも同教

会が中心となつて「その列福を願つて」盛り上げてきた。

来年の列福が決まり喜びに湧く今年の記念祭には、これまで最高の三百人が集まり、山頭信子修道女(長崎純心聖母会)のレオの殉教を物語る紙芝居「もうでござるか」と十八人の司祭団によるミサ、そしてレオが受洗した京教会跡と言われる「ロザリオの丘」への巡礼で構成された。

ザビエル教会学校中高生会のメンバーの「鹿兒島に聖人はいるの?」という素朴な疑問に答える形で始められる紙芝居「もうでござるか」は、殉教者の掘り起こしの意味、そしてレオ

の生き方や心情、そして、それを学んだ子どもたちの心の成長がよく描かれている。またシスター山頭の臨場感たつぷりの朗読は歴史や事実を学ぶ学習会とは一味違い、殉教者の、そして殉教者となつた人の心の奥に触れるようだった。

その後、街の中心から十二キロほど離れた京泊へ足を運び、聖歌を歌い、ロザリオの祈りをささげた。川内川河口を見下ろす丘の上に集つた大勢の参加者たちは、その雄大な景色を眺めながら、受洗と殉教に際してのレオの心を学び取っているようだった。

濱尾文郎枢機卿帰天

ステファノ濱尾文郎枢機卿(前横浜教区長)は十一月八日(木)、肺がんのため帰天した。七十七歳だった。葬儀ミサ・告別式は十二月(月)正午から東京カテドラル聖マリア大聖堂で、白柳誠一枢機卿(前東京大司教)の主司式で執り行われた。

濱尾枢機卿は今年十月、体調を崩し帰国していた。バチカンの高官として、つい先月まで教皇ベネディクト十六世を支えてきた枢機卿に対して、教皇は以下の弔電を送った。(オッセルバトーレローマーノ紙)掲載:原文英語)

「あなたの親しい兄弟の突然の訃報に接し、あなたに対して、私はあなたとご家族に、衷心からお悔やみを申し上げます。私は枢機卿様の永遠の安息を祈ることをお約束するとともに私たちが強く希望しているイエス・キリストの約束から生まれる慰めと平和をあなたに与えてくださるよう祈願いたします。私の使徒的祝福とともに」

「あなたに接し、あなたとほぼ二十年間司教を務めた横浜教区の信者の皆様に対して、心からの哀悼の意をお伝えします。枢機卿様は、教皇庁移住・移動者司牧評

無原罪の聖母と私たち

十二月八日は「無原罪の聖マリア」の祭日です。「救い主の母に選ばれたマリアはその誕生の時から、原罪を持っていなかった」という教義です。人祖アダムの子孫である人は皆、原罪を持って生まれているのですが、神の特別な計らいによってマリアは原罪を持たずに生まれたのです。それは罪とは無縁の神の子の母になるには相応しいことでした。

神に聴くべき善悪の判断を自己決定できる能力だったので、人祖が「神から食べてはいけない」といわれていた「善悪を知る木」の実をとって食べたこと、次にとるべき行動は、善悪を知る木とともに園の中央にあった「命の木」からもその実を食べ、「永遠に生きるもの」(同上22節)に

遠に生きるもの(同上22節)に、神はそのことをおそれて人祖をエデンの園から追放しました。さて、神の言いつけを守ってエデンの園にいた方がよかつたのか、それとも善悪の自己判断を神の意思を無視して行う方がいいのかを考えると、エデンの園にはもう住めないとしたら、善悪の判断に神の意思を加味させるという方法が考えられるのです。無原罪のマリアは神の意思に「ハイ」と素直に聴き従いました。

そういえば、洗礼を受けたとき原罪と自罪はゆるされたのでした。つまり、マリアが神から特別な恵みとして受けた無原罪の御宿りは、私たちが受けた洗礼の秘跡の中で実現していたのです。(H・N)

YET

「いいペースだ」と弁解がましいことを呟いてみるが、ただ

単に暗闇が嫌なだけ。生来「やつせんぼ」である。そういういえば昨夜、床にいたときも、信仰心とはほど遠い感覚から近くに十字架がなく、それを探し回つた▼恐怖心をひた隠しにしたがらの夜のランニング。「何が追ってくる」というような恐怖心からペースはかなり上がってしまう。幼い頃、夕暮れどきのお道いで、人通りのない、薄暗い場所を全力で走っていたのと同じ、そのままである▼市内を流れる甲突川沿いのコース、そこに街灯ではなくほんのりと、暗くはない場所がある。人の交わす声と明るくはない光、それでも「やつせんぼ」が恐怖心から解放される場所となつてくれている。安心感から少し速度を落とせる。その安らぎを与えてくれるのは、ダンボールで囲い、川沿いで生活しているおっちゃんたち。臭いには感心しないが、真つ暗闇よりはまし。この人たちがいなければ、きつとこのコースでのランニングはどうに諦めている▼そしてそんなおっちゃんたちもまた別の明かりの下に集まってくる。土曜の夜に炊き出しをしてくれる教会のグループ「夜回りの会」を求めてだ。そういえば、そういう人たちの友「きぼうの電話」も開局二十年だという。自己満足のためのランニングの最中、なにか不思議で申し訳ない気持ちになった。

詩

—心のままに—

鴨池教会 田平新太郎

ロザリオの祈り

マリアさま

あなたの御名を
五十回呼び
思いをこめて
問いかけるのです

空の低い日は
あなたを
おもいだすのです
雪の降り積もる
十字架を
見つめていると
あなたに
逢いたくなるのです

ロザリオを繰りつつ
問いかけて

あなたの御名を
呼び続けるのです



夕映えの街屋根を
眺めていると
あなたが
笑みかけて
くださるのです

ついに完成！
レオ七右衛門人形



この人形ど
こか愛敬があ
る。でもその
力強くしっか
りと組まれた
手には、殉教
に臨むレオの
強い意志と神
への祈りが感
じられる。可
愛らしい分だ
け、切なくも
なる。殉教を
覚悟したレオ
七右衛門の心
情がよく表現されている。
実はこの人形、さつま郷
.....
あゝすすきり
司教座のザビエル像
旧ザビエル聖堂とともに
撤去された鐘楼に立って
いたザビエル像が久しぶりに
皆の前に姿を表した。
郡山司教の「ザビエル教
会にはやはりシンボルの像
が」という願いにザビエ
ル教会の信者がこたえる形

文芸

俳句(思川俳句会作品)

市来房枝選

純心学園 山頭 信子

更衣せし服繕へる修道女
(評) 何気ない生活の一瞬がうまく表
現された。「更衣せし」がよい。

幼な子のミサにあづかるもみじの手
(評) 結句の「もみじの手」が利いて
いる。

狩をする声聞へ来ぬ冬の山
(評) 研ぎ澄まされた感性が伝わって
くる佳作

芒野に心遊ばす旅一日
鹿兒島 徳永ノブ子
木犀の匂ふひと日の庭仕事

純心学園 川上 和

青空に張り付く柿の朽葉舞ふ

鹿兒島 春山マリ子

秋深し犬とわれとの日向ぼっこ

鹿兒島 龍門司真人

淋しさも悲しさもなし聖母像
(評) 「主よみ旨のままに」と大天使

ガブリエルのお告げを受けとめら
れたマリアさまの表情が見事に表
出されている。

短歌(思川短歌会作品)

市来房枝選

出水 遠竹 睦郎

父母と戯れながら公園に遊べる子等
の声や明かるし
(評) 親子の幸せな会話が聞こえてく
る一首

亡き君の忘れ形見の眼差しは在りし
大 口 森 博伸

純心学園 川上 和

彼の日の君の面影
(評) 友人の子どもの顔を温かく見守
りながら亡き人を偲ばれた一首

灯籠のともる夕べの薄明かり平和の
祈りを炎運べり
阿久根 中津濱フサエ

鉤になれ竿になれとの呼びかけに素
直に飛べる鶴の賢さ
奄美 林 常広

いにしへの奄美の音色消へゆくか三
味線弾けば煩さがられき
奄美 林 明子

夕焼に友の笑顔の輝きてきようの一
日のこころ和めり
鹿兒島 春山マリ子

主を信じ友を信じてきょうも在り生
き抜く力自と湧きぬ
選者 詠
教会の九十年誌にサーベルを下げる祖
父の写真が在りき (大口聖公会記念誌)

司教執務
室便り

聖地づくり

土人形を手掛ける岩野啓一
郎さんの作品。鹿兒島市新
屋敷町で作品づくりを励む
岩野さんは、これまでに聖
フランシスコ・ザビエルや
ザビエル教会等にもつわる
物を数点制作して下さって
おり、このレオ七右衛門人
形は最新作。
列福式を来年に控えて、
その表情には喜びも見て取
れるから不思議だ。

での実現となった。
始良教会に保管されてい
たザビエル像は、教皇大使
に祝別されるのを前に、職
人達の手によって数十年に
わたりこびりついた汚れを
落としてもらった。



ザビエル様が帰ってこら
れた。ザビエル記念聖堂の
顔が出来たようで嬉しい。
聖堂正面で高く手を挙げて
立つ師の姿は、かつて鹿兒
島の人々に福音を説かれた
時の姿を彷彿とさせ、同時
に道行く人々に温かい祝福
を送っているかのようだ。
高すぎず低すぎず、人々の
視線よりわずかに上という
のもビミョウでいい。みん
なで議論を重ねて決めただ
けあって位置もいい。聖地
としての風格が整った。

はその書簡のなかで、すで
にいた十五人の信者達のこ
とを「パードレ・メストレ・
フランシスコによって作ら
れたはずの人々」と呼んで
いる。東市来もザビエル様
と縁があったとは「勉強不
足を痛感。ともあれ、「一
宗教家を特別扱いするのは
いかがなものか」という狭
い見でなく、「文化の担
い手」という見識は高く評
価したい。そして、行政と
のこうした接点を大事にし
たいと思う。鶴丸城跡も聖
地になる。素直に嬉しい。

先月の川内での殉教祭
はかつてないほどの参加者
だった。この盛り上がり
新たな聖地を作るための原
動力にして欲しい。そして、
みんな力で合わせて、レ
オ七右衛門殉教の場所に立

派な記念碑を建てなければ
ならない。教区内はもちろん
日本全国から巡礼者が訪
れることはいいことだと行
政の側にも分ってもらえる
ように努力しないといけない。
パチカン直々の「列福」
の国際性についても。
聖地を通して人々が、洗
礼・ミサ・殉教者などの信
者の専門用語を自然に口
にするようになることを夢
見るのは楽しい。こうして
やがて人々の心に主が誕生
していくのだ。もうすぐク
リスマス。



+KABAYAN SEKSIYON+

"Inspirasyon at Katotohanan ng Banal na Kasulatan"

Ang Dios ang may akda ng Banal na Kasulatan. "Ang makadios na kapahayagan ng katunayan, na nakapalo-ob at ipinakilala sa libro ng Banal na Kasulatan, na is-Inulat sa ilalim ng inspirasyon ng Espiritu Santo."

"Para sa Santa Inang Simbahan, na umaasa sa pananampalataya ng panahon ng apostoliko, tinanggap bilang sagrado at pinag-kanonikong aklat ng Luma at Bagong Tipan, kabuuan at lahat, kasama ang lahat nilang bahagi, na sa katunayan, isinulat sa ilalim ng inspirasyon ng Espiritu Santo, mayroon silang Dios bilang kanilang may akda, at ipinamana ito bilang ganyan sa Simbahan mismo."

Ginabayan ng Dios ang mga nag-akdang tao ng sagradong aklat. "Para mabuo ang sagradong aklat, nagpili ang Dios ng ilang mga lalaki, na kung saan ang Dios mismo ang nagpasok sa trabahong ito, punong-punong ginamit nila ang sariling kakayahan ng isip at kapang-yarihan sa dahilan na kahit siya ang kumikilos sa kanila at para sa kanila, ay parang sila ang tunay na may akda na nagsusulat kahit na ano ang gusto nilang isulat at kung ano pa."

Ang pinag-inspirasyonan na aklat ay nagtuturo ng katotohanan. "Na kung gayon ang lahat ng mga ginagabayan, may akda o mga sagradong tagasulat, ang patibayan ay kailangan bigyan patibayan ng Espiritu Santo, kailangan matatag nating kilalanin ang aklat ng kasulatan, na may katapatan at walang maling turo ng katotohanan na kung saan ang Diyos, para sa ating kaligtasan, ninanais na makita ang pagtitiwala sa Banal na Kasulatan. Kung ganoon ang pananampalatayang Kristiyano ay hindi "relihiyon ng aklat." Subalit ang Kristiyanismo ay relihiyon ng "Salita" ng Dios, "hindi kasulatan at hindi piping salita, subalit naging laman at nabuhay." Kung ang kasulatan ay hindi labing patay na sulat, si Kristo, ang walang hanggan Salita ng buhay na Dios, kailangan, sa pamamagitan ng Banal na Espiritu, "bukas ang ating isipan na maunawaan ang kasulatan"

寄り添う看護について研修

「日本カトリック看護協会全国大会」 in 鹿兒島

第四十九回日本カトリック看護協会全国大会が鹿兒島純心女子大学(薩摩川内市)を会場に十一月九日(金)、十日(土)の二日間、全国からの百四十人余の会員と来賓の臨席のもと開かれた。集まった会員たちは大会のテーマ「寄り添う看護―マリアの心でいのちのケアを―」のもと、講話や事例発表で研鑽し大会の成果を持ち帰った。



毎年開催されている日本カトリック看護協会(JCNA)の全国大会も今回が四十九回目、この歴史ある大会が初めて鹿兒島教区で開催された。二日間にわたる大会では、大会テーマ「寄り添う看護」に沿った以下の三つの講演があった。

(甲)「カトリックナースの使命」(糸永真一司教)
 (月)「あたたかい医療を考える」(三島盛武鹿兒島純心女子短期大学教授)
 (火)「医療者と宗教的対話」(フランコ・ソットコロノ神父 真命山諸宗教対話霊性交流センター長)
 また十日(土)午前中の会員発表では、カトリックの信仰を持つ看護士として働くことの大切さややり甲斐、また非キリスト

ザビエルの死

門田 明氏の
鹿兒島とキリスト教(前)

九月号で、一五五一年十一月、ザビエルがひとまずインドに帰ることを決め、日本を去ったことを記した。ただインドへの帰途、中国に立ち寄りた望望を持っていったようである。河野純徳著『聖フランシスコ・ザビエル全生涯』は次のようにザビエルの心を説明している。

「シナは日本に宗教と文化を伝えた国である。もしもシナ人が聖教を信ずるようになれば、日本人もその影響でたやすくキリスト教の信者になるだろう。しかもシナは平和で、日

本人よりも賢く知識欲に富む国民だから、聖教を快く受け入れ、インド人よりも着実に信仰を守るに違いない。」

ザビエル自身手紙(書簡第一一〇)の中で次のように言っている。

「シナは日本の近くにあるたいへん大きな国で、非常に聡明な人たちが住み、学識ある人たちがたくさんいます。私が得た情報では、彼らは学問に励み、学識があればあるほど尊ばれ、高く評価されています。日本の「仏教の」諸宗派はすべてシナから渡来したものです。主なる神がその聖名をシナにおいて述べ伝えられるようにしてくださいと、大いに信頼して出発いたします。」

こうして中国宣教を志したザビエルは早速行動に移る。中国に入

るため、本土を目前にする上川島に、一五五二年八月上陸する。

「主なる神のご慈悲と深いおあわれみにより、デイエゴ・ペレイラの船で渡航していた私たちは、商人の船がたたくさん停泊しているサンチャンの港に無事到着いたしました。このサンチャンの港はカントン(広東)から三十三レグア(一六八キロ)のところにあります。」

ザビエルはサンチャンから広東に渡り宣教を開始する心積もりであったようである。しかし十一月に入り熱病にかかる。高熱が続き死期が迫る。こうしてイエズスの聖名を呼びつつ十二月三日夜明け前、帰天したのであった。享年四十六歳であった。(玉里教会信徒・ザビエル上陸顕彰会会長)

短信

教の職場との軋轢とそれを克服しながら働き続ける成果などが報告された。

会員発表の締めくくりに挨拶したJCNA本部の澤禮子修道女(天使大学)は、「ここで分かち合われたことは一般の大会でも発表されるべき内容。看護は神との出会いの場ということに伝えながら、私たちはまた専門的な知識や技術も高めたい」と会員たちを励ました。

その後は、会場を学園のチャペルに移して、大会の実りを願うミサがささげられ、閉会した。

JCNA鹿兒島支部の小さな団体は、数年前から準備をしこの大会に備えてきた。また、大会には女性の信徒の会の協力や会場地となった純心大学、川内教会の大きな協力があり、皆で作りに上げた大会となった。

▼聖パドレ・ピオの集い
十月二十六日(金) 聖パドレ・ピオの集いがザビエル教会であった。

指導のペトロ神父(カプチン会)は、集まった三十人の信者に聖体、ロザリオの祈り、煉獄の霊魂のために祈ること、ゆるしの秘跡、教会のために祈ることを訴えた。

▼壮年会が黙想
鹿兒島カトリック連合壮年会は、十月二十七日(土)、二十八日(日)の二日間、マリア山荘で黙想会を開いた。

▼溝辺教会で初の堅信式
溝辺教会(永山幸弘神父)は、一九九三年に祈りの家として落成されマリア山荘の愛称で多くの信者たちに静けさの中で祈る場を提供

してきている。その溝辺教会で十月二十八日(日)同教会初めての堅信式があり郡山司教の手で三人にその恵みが授けられた。

初の堅信を喜ぶ司教はその説教で「イエスの前に出ると自分の持っているどんな道理も吹き飛ばしてしまう。自分中心の考えを捨て、神さまに気を遣いながら、神さまに心を傾けて、その力を実感できる信仰を持つ大人の信者になる」と受堅者を励ました。

▼瀬留教会に聖体奉仕者
十一月四日(日) 郡山司教は瀬留教会に赴き、その日のミサの中で同小教区の七人を聖体奉仕者に任命した。この日任命されたのは、以下の七人(敬称略) 嘉トクエ、松元メリ子、碩丈代、村上早苗、大司昭子、徳孝子、栄ハル。

七人は、末吉神父に協力しながら病人に聖体を届けることになる。

奄美にまたひとつ巡礼地

大柵教会に見事な壁画

約十か月、ホルへ神父(小宿小教区)のもとで実習を積んでいた田中裕人神学生(国際宣教師学院)が、十月奄美を離れるにあたり大きな贈り物を残して

くれた。田中神学生が残したのは、スペインから取り寄せた金箔を使って自分で描いた高さ三・二〇、幅五・二〇の壁画で「天使のお告げ」「十字架上のキリスト」「復活のキリスト」が描かれている。壁画の残された大柵教会は、老朽化が進んでいたが、田中さんの活躍で壁、屋根の修復に加え、新たな巡礼地ともなれる色彩豊かな壁画を所有することになった。



12月

今月の暦

- 2日(日) 待降節第一主日
- ▼宣教師司祭育成の日(献金)
日本にはこれまで海外から多くの宣教師が来て、キリスト教の信仰をもたらしてくれました。現在の信徒数に対して司祭の数は確かに多いでしょう。でも、キリストを知らない人の数を考えると、もともと司祭が必要で、宣教師を含めても、約八万人に一人の割合です。
- 「宣教師司祭育成の日」は、日本だけでなく世界中の宣教師において司祭の育成が大切なことに気づき、そのために祈り、献金をささげるよう呼びかけます。この日の献金はローマ教皇庁に集められ、全世界の宣教師の司祭育成のために援助金として送られます。
- 3日(月) 聖フランシスコ・ザビエル司祭
- ▼小川靖忠神父叙階記念日(一九七二年)
- ▼中野裕明神父霊名
- 7日(金) ヴィンセント神父命日(二〇〇六年)
- 8日(土) 無原罪の聖マリア
- 9日(日) 待降節第二主日
- 16日(日) 待降節第三主日
- 20日(木) 大野和夫神父叙階記念日(一九六一年)
- 23日(日) 待降節第四主日
- 25日(火) 主の降誕
- 26日(水) 聖ステファノ殉教者
- 27日(木) 聖ヨハネ使徒福音記者
- ▼田邊 徹神父霊名
- ▼寝占敦之神父霊名
- ▼末吉卓也神父霊名
- ▼レヒナ神父霊名
- 28日(金) 幼子殉教者
- 30日(日) 聖家族

大口合同クリスマスの集い

日時 12月9日(日) 13時
場所 大口文化会館小ホール 入場無料
出演 明光学園吹奏学部・合唱部 大口幼稚園
ハッピーシンガーズ ティンクルマミー
「特別ゲスト」
蓮田太二 熊本慈恵病院理事長
演題 「このよりのゆりかご」

鹿児島きぼうの電話が開局して、この十二月で二十年。社会で苦しむ人の隣人となっているこの活動について相談員たちの思いを記してもらった。

元運営委員長

中江 均

「教会が社会とつながった―鹿児島きぼうの電話」開局に当たって述べられた当時の運営委員長・郡山神父様(現司教)のメッセージです。あれから二十年、電話回線を通して病める多くのの人々とつながり続けているのです。いったいこのエネルギーはどこから来るのでしょうか? ボランティア、賛助会員の秘められた愛、そうです、神との一致を求める愛にちがいありません。「幸いなるかな心の貧しい人」貧しい(貧)を分けるの意、これからも病める人々と共に分かち合いが続きますように。

(吉野教区)

S・T

あの日のあなたは、今どうしていらつしやるでしょう。できることなら、もう一度あなたの声を聴きたいです。今もあなたが懸命に日々過ごしていらつしやることを心から願っています。(ザビエル教区)

T・K

まったく自信のない私に「ただ聞くだけでいいのよ」との言葉にうながされ、聞くだけなら私にもできるのでは、と思いました。

相談者の中には、家族にも疎まれ、淋しさから、話をしたいだけの常連の方々もいらつしやいます。話を聞き感ずることは、私も

心の貧しさ『鹿児島きぼうの電話』開局二十周年に寄せて

まったくこの方々と同じということ。時々ふいと淋しくなり、傷つきやすいく、孤獨に、おちいりやすい弱い人間です。ただ私たちには信仰があります。どんな時にもいつも変わらない神が共にいてくださる事に気づき救われます。「キリストのため、私たちに何がで

ています。平成十八年七月十四日で終わりにさせて頂きました。十四日の夜、すごいめまいがしまして血圧が上がりました。めまいはすぐよくなりましたけれども血圧の方が安定してから退院するようにとのことでした。一か月間で退院しましたがストップがかりまして続けることはできなくなりました。自分のためにも生き甲斐でございましたのに。たくさんの相談を受けま

しいました。急に「よく考えてみればそうでした。自分が間違っていました。よく分かりました。助かりました。死ぬのはやめます」「分かってくださったのね、私もうれしいです。約束してくださいませ。」「はい」「よかったです。これからは前向きに生きて下さいね。いつも神さまが共にいて下さることをお忘れなく生きて下さいね」

大変でいらつしやいます。でも、これからも続けて下さいませ。申上げます。

黒子に徹する

K・A

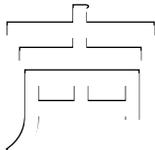
「きぼうの電話」のロゴマークを見る度に電話設立準備時が目に浮かんできます。試行錯誤の研修会や話し合い等。ある会議ではお先真っ暗。ある日の会議では「何とかしなければ、話を聞いて欲しい人々が待っているのだから...」と。心を鎮め取り直して再度の会議等に同伴して下さっていたのが郡山神父さま(現司教)でした。養成講座の講師依頼も皆目あ

たのでしよう。懸命に家族に尽くしているにもかかわらず、自分を受け容れてもらえない、理解してもらえない等のこと柄を一杯いっぱい話してくださいませ。緊張気味の新人相談員がどの様な相槌や応答をしたかは定かではありませんが、身体全体を耳にしてお聴きしていたというような感じが残っています。電話の向こうの声が途切れ沈黙になりました。「ア、これで電話は終わり、切れる」と思いながら沈黙に寄り添う気持ちで待つこと何分間だったのでしょうか。声の表情が落ち着き「私は家族のことばかり責めていたように思いますが、自分も悪かった点もあつたように思います。やり直してみたいと思います」固唾を飲みながら、ドアの外では仲間たちが沈黙の内に支えて下さっていた長いながい電話が終わりました。

こんな私でも人を助けることができるとは、神さまのお恵みだと思つていきます。感謝いたしていきます。自分は今から死にます」「どうなさいました、落ち着いて話を聞かせて下さい」ぼつぼつ話して下さい、私はその話を聞いて居りました。三十分位だったでしょう。私の話も聞いて下さり落ち着かれたような返事だったので、「ねえ、命は一つでしょう。自分勝手に生まれてきたのではないですよ。神さまに頂いた命ですよ。大事に生きましょうか。分かるでしょう。どんなことがあつても生きていくよう神さまが守つてくださるのですよ」など色々話しました。ずつと聞いて下さつていらつ

私がお話した内容は、黒子に徹する「等々の大坪先生のお言葉が身に沁みております。(谷山教区)

J CNA全国大会を終えて
—お礼と大会報告—
十一月九日(金)、十日(土)にわたり日本カトリック看護協会の全国大会が盛会のうちに終了いたしました。この会を持つにあたり鹿児島教区並びに信徒の多くの方々のお力添えをいただきましたことを厚く御礼申し上げます。
大会に出席した会員は薩摩川内の広い大地に広がる純心大学のキャンパスに驚きと羨望、夢を抱いてくださいました。この会場を提供して下さった学校と修道会に感謝!「寄り添う看護」マリアの心で『いのち』のケアをのテーマの下、約百四十人が集いました。大会の講話についてもカトリック看護者としての大切な「使命」「あたたかい医療」「医療者と宗教的対話」については各自の胸に灯火となつた貴重な話でありました。会員三人の発表は精神科看護から二例、老人保健施設での思いやりのケア例があり、いずれも今の社会に大切な話でありました。現場の苦勞と喜びが伝わって、会場からは涙も流され、われわれ会員の健闘ぶりがひたひたと感じられました。
以上のように、大会を無事に終えることができました。J CNA鹿児島支部からの報告と致します。今後ともよろしくご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。
支部長 松村精子



マリア像設置へ

柱 日出子

ザビエル教会が新築されてから数年が経ちました。ミサに集うなかで、マリアさまのお姿が教会の庭にないのが寂しい限りでございます。

ます。皆さまもたぶんそう感じているのではないのでしょうか。現在、マリア像をどこに設置したらよいかとご検討中と申すか。私、以前、国内のカトリック教会巡礼の旅をしたことがございます。訪ねたどちらの教会でも、その正面にマリアさまがお立ちになつており、そのお姿がカトリックの象徴のように思つておりました。イエスさまを抱かれたマリアさまは何とも言えないほど美しい

お姿だと最近特に感じるようになってきました。郡山司教さまがザビエル聖堂にマリアさまを設置して下さい、大変らかな気分になつて、聖堂が美しく明るく感じられ、平穏なひとときを過ごすことができます。イエスさまもよなくマリアさまを愛しておられます。マリア像の設置場所についてですが、小聖堂外側の前面はいかがでしょう。小聖堂の中のイエスさまとマリアさまが背中合わせになります。マ

リアさまの上にアーチを作りその両脇にオリブか、ぶどうの木を植えて、前に二人くらい立てるスペースがありますと一般の方々に、マリアさまに親しんでいただき、そして「何かを感じていただけ」と思っています。設置については、いろいろな意見もあろうかと存じますが、幅広い意見の収集という意味で私の意見を述べさせていただきます。